

自転車の魅力楽しんで



▲自転車を整備する岡本さん

「健康的だし、自然を感じながら楽しめるのが自転車の魅力。スピードが出る車やバイクでは見落としがちな小さな変化も感じられる」と話すのは、サイクリング歴42年の岡本吉信さん(64歳)。宮浦にある自転車店の2代目店主です。

岡本さんが自転車競技に目覚めたのは22歳の時でした。友人に誘われて県内のサイクリング大会に出て100キロメートルを完走。「走り切った後の達成感が忘れられない」と、のめり込みました。全国各地の大会に出場、次第に仲間も増え、運営方法も学びました。

そんなある日、「三原にもほかの市町に負けないくらいに景観が良く、素晴らしいコースがある。三原で大会を開けないかと考え、仲間を掛け、市や観光協会などに掛け合い、実現に向けて奔走。平成26年、市内外の人に三原の自然や果物をアピールする自転車イベント「フルツライドみはら」の開催にこぎ着けました。本郷の「爆雪の滝」や高坂の佛通寺、須波の海岸線などを巡るコースで、参加者は約400人。苦勞はしたものの、参加者から「海や山、新鮮な果物を満喫できて良かった。これからもぜひ開催してほしい」などの声を掛けられ、喜びが込み上げてきたそうです。「これならできる」と意を強くし、3年後の平成29年には「竜王みはらしライン」の開催に合わせ、瀬戸内海を臨む市有数の観光地・竜王山(標高445メートル)の山頂まで駆け上る「竜王山ヒルクライム」も開催。市内外に大きな反響を呼び起こしました。



▲岡本さん(中央)とメキシコ自転車競技選手団の選手たち

平成30年には、東京五輪に向けた事前合宿のため来日したメキシコ自転車競技選手団のボランティアスタッフとして、自転車のメンテナンスを担当。今は五輪開催を楽しみに、自転車など2輪車の販売や修理をする傍ら、休日には愛好家たちとツーリングに出掛けることもあるそうです。「もっと気軽に多くの人にサイクリングを楽しんでほしい。自転車の愛好者が増え、三原のまち全体が盛り上がりげばうれしい」と期待を込める岡本さん。日焼けした笑顔が輝いて見えました。

※この企画は、東京五輪に向けてスポーツに対する関心を高めていこうというものです。

令和3(2021)年2月号
第191号 毎月1日発行
編集・発行／三原市広報戦略課

〒723-8601 広島県三原市港町三丁目5番1号
代表 ☎0848-642111 ☎0848-647101
E-mail: info@city.mihara.hiroshima.jp

再生紙と大豆インクを使用しています。
点字版や録音CDも発行しています。
問い合わせは広報戦略課 ☎0848-676007へ。

三原市の人口 (12月31日現在)	
※外国人住民を含む。	
※()内は前年同月との比較。	
世帯数	43,636 世帯 (-6)
人口	91,990 人 (-1,090)
男	44,231 人 (-526)
女	47,759 人 (-564)
人口移動の詳細については 広島県 人口移動 月報 で検索	

税などの納期 (普通徴収)	
○固定資産税・都市計画税(第4期)	
○国民健康保険税(第8期)	
○介護保険料(第8期)	
○後期高齢者医療保険料(第8期)	
納期限	3月1日(月)まで
夜間収納窓口(19時まで)	
11日を除く毎週木曜日	
航空機の騒音測定結果(12月分)(Lden)	
▶正広局(本郷町善入寺正広)	=48.2
▶本郷局(本郷町船木川西上)	=50.5

今月の表紙 \ クローズアップ! /

市民団体 ミハラスパイスの皆さん



今月の表紙は、市民や市ふるさと大使などさまざまな人たちが制作しただるまたち。「三原に刺激を」をテーマに活動する団体「ミハラスパイス」の皆さんがコロナで中止になった神明市の代わりにまちを少しでも盛り上げようと集めました。コロナ終息の思いが詰まっただるまはミハラスパイスのインスタグラムで見ることができます。

「ミハラスパイス」インスタグラムの2次元コード▶



あ・と・が・き

毎年2月に開催される三原

神明市が、今年は新型コロナウイルスの影響で中止となりまして、神明市の中止で気になることがあります。「去年買っただるまの購入方法は」、「今年のだるまの購入方法は」、「三原観光協会に確認すると」だるまの供養は近くの神社などに相談してみてください。だるまの購入先は三原観光協会(毎日9時~18時 ☎0848-675877)に問い合わせてください」とのこと。神明市は中止になっても、今年も変わらず、新しいだるまと共に春を迎えたいと思います(一)